

国際交流フェスタ「わいわい春まつり」開催！！

4月22日（日）鈴鹿ハンターにて国際交流フェスタ「わいわい春まつり」を開催しました。

今年のお天気は、あいにくの雨。残念なことに屋外ステージで予定していた白子ウインドシンフォニカ、東海道石薬師大木神社太鼓連による和太鼓の演奏、弁天山公園のフリーマーケットやキッズバイクトライアルデモは中止となってしまいましたが、屋内ステージへ移せるパフォーマンスは全て移して、館内は内容盛り沢山で開催しました。

屋台は、屋外コートでなるべく雨に濡れないように、並びを2列から1列に変更し出店していただきました。また日本やアメリカの遊びコーナーも寒い中、屋外のコートで頑張っていました。

今年も「被災地を応援しよう！」をスローガンに会場で募金を募り、会場のお客様やスタッフのみなさん、また屋台の売り上げからもご協力をいただきました。みなさまからお預かりした義援金は、鈴鹿市から日本赤十字社を通して被災された方々にお届けしました。ありがとうございました。

また今回は、たくさんの企業協賛をいただきました。ありがとうございました。

協賛金提供企業

あいおいニッセイ同和損害保険（株）、（有）飯田商事、福祉法人伊勢亀鈴会、
（有）カネスエ製麺所、三恵工業（株）、医療法人誠仁会 塩川病院、（株）敷島スターチ
生川倉庫（株）、（株）フジコウ、（株）三重平安閣、ホンダカーズ三重北、（有）ヤマモト
（株）ヨシザワ、好広

物品提供企業

AGF 鈴鹿（株）、（株）モビリティランド鈴鹿サーキット、（株）賃貸や、（株）本田技研鈴鹿製作所

また当日は、約300名のみなさまがボランティアとして春まつりを支えて下さいました。ボランティアさん達の協力がなければ、この春まつりは成立しません。心より感謝申し上げます。

さて、今年のレポートは、出演して下さいましたパフォーマーさんやブース出展された方より、ご感想をお寄せいただきましたので、以下に掲載させていただきます。



ご協賛
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
（有）飯田商事
福祉法人伊勢亀鈴会
AGF 鈴鹿(株)
（有）カネスエ製麺所
三恵工業(株)
医療法人誠仁会塩川病院
（株）敷島スターチ
（株）モビリティランド鈴鹿サーキット
（株）賃貸や
生川倉庫(株)
（株）フジコウ
（株）三重平安閣
（株）本田技研鈴鹿製作所
ホンダカーズ三重北
（有）ヤマモト
（株）ヨシザワ
好広

センターコート

[オープニングセレモニー]



[パフォーマンスショー]

<フラダンス>

ラウレアフラクラブ



今回はじめて参加させて頂きました。あいにくの悪天候の中、プログラム一番目の早い時間にもかかわらずたくさんの方々にお集まりいただけて、とても嬉しく思っております。

日本のヒット曲「涙そうそう」をはじめイブというひょうたんでできた楽器を使ったフラやハワイアンミュージシャンがパリの街を唄った曲、タヒチアンなどさまざまなタイプのフラを披露させていただきました。少しでも皆様にアロハが伝わりましたでしょうか？

他のパフォーマーの皆さまもとても元気で素敵で、様々な国の方々が一同に集まり活気のある楽しいお祭りを私達も存分に楽しませていただけました。天候による変更など関係者の皆さまは大変なご苦労があったことと思いますが、明るく対応して頂けて心から感謝しております。本当にありがとうございました。

<コリアン舞踊シアリ>



わいわい春祭りに参加するのも今回で3回目。

私達にとっては、朝鮮半島の民族文化を知ってもらうとても良い機会になったと思います。

公演中のお客さんの手拍子も温かく、又、音源などのトラブルがあったにも関わらず、当日のスタッフの方々の対応と配慮のおかげで、安心して楽しく踊ることができました。

待ち時間の間も、フラダンスなど、他の出演者の方たちのステージも楽しく拝見しました。

ただ、今回は当日あいにくの雨だったので、出演時間が変更されたことを知らずにシアリのステージを見れなかったお客さんからの惜しまれる声もありました。



私達もブログで告知をしましたが、直前だったからか間に合わなかったようです。もっと事前から、晴天時・雨天時のスケジュールを告知する、もしくは時間はそのまま場所だけ変更(といっても色々難しいと思いますが…)など、何らかの対応が必要だと感じました。

又、屋外と屋内では舞台の大きさが違ったので、事前に雨天時のステージの大きさも把握できればと思います。この点は、私達もしっかり確認するよう心がけます。

来年、再来年と回を重ねるごとに、このイベントがますます盛り上がり、国際都市鈴鹿の異文化交流が盛んになることを願いつつ、私達も今後とも積極的に活動していきたいと思っています。ありがとうございました。

<中国琵琶&書道>



日本に来て、「絆」という文字がすごく日本の方々に愛されているということがよく感じています。《広辞苑》を調べると、「断つにしのびない恩愛。離れがたい情実。」という解釈が出てきます、但し

日常のいろんな面にも、この漢字が使われています、愛情、友情、同僚、仲間同士、すべての良い関係を維持する為に、「絆」が必要だと思います。この度、わいわい春まつりに書道を通じて、みなさんとの交流が出来ました。音楽のリズムに合わせて、自分の心が入った

た字を書いて気持ちよかった！その場で各国からの方々の間に出来た「絆」を充分感じました。

鈴鹿国際交流協会と協力して頂いたみなさんに心より感謝の気持ちを申し上げます！

インドの霊鷲山（グリドラクータ）上で釈迦牟尼仏が黙って華を拈たところ、大衆はその意味を理解することができなかつたが、迦葉尊者だけがその意味を理解して破顔微笑したため、迦葉に禅の法門を伝えたという伝説がありました。私たちの笑顔があれば、言語がなくとも「きずな」が繋がれていることを信じます。

最後に、東日本大震災の被害者の冥福を祈ります。 南無阿弥陀仏。

<ペルーの子どもの遊び>



わいわい春まつりでの子どもたちとの出会いは、とても素敵な体験でした。

子どもたちは、大きな喜びを持ってきてくれましたし、遊びたい、参加したいという気持ちが強く出ていました。

わたしは、子どもたちには、民族、言葉、それぞれの習慣などは関係ないだと気づくことができました。ただ、歌って踊って遊んで幸せな時間、個性を出して過ごしたいとだけ思っていたに違いありません。あの日、子どもたちに必要な言葉はただ一つ「愛」だったと思います。

それで私は、最高の気持ちで最高のショーを子どもたちと、保護者の皆様に楽しんでもらおうと思

行いました。

SIFA のスタッフの皆様、私にこのような機会をいただき本当にありがとうございました。私の事を思っただき、子どもたちに少しでも喜びと楽しみ、笑顔をあげられたことを感謝いたします。

<ベリーダンス>



今年のわいわい春まつりも、楽しく参加させていただきました。

私たちはスタジオが津と伊勢にあり、今回も伊勢から参加のメンバーもいましたが、スタッフのみなさんの温かいサポートや参加者の方々の様々な交流など、あいにくの雨(暴風雨?)もなんのその、参加者一同大満足!!の1日でした。

<フラメンコ>



会場で知り合った出演者の方とのその後の活動についても、少しずつ話が進んでおり、同じ三重県に住む外国人同士、共に協力して実りある活動につなげていければ“楽しい!!うれしい!!”の輪がどんどん広がっていくのではないのでしょうか。

来年もぜひお声がけいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

<カポエイラ>

私たちカポエイラカマラは、2012年のわいわい春まつりに参加できたことを、誇りに思います。私たちの町で、その役割を担うことは、素晴らしい体験でしたし、私たちは人々のエネルギーを瞬間瞬間で感じ、そして実行委員会や細かい所もパーフェクトでした。

来年もこの素晴らしいイベントにまた参加し、もう少しブラジルの文化を見せて、エネルギーをもっと注入し、これまでにないほど良くしたいと望んでいます。

この素晴らしいパフォーマーのチームの中に参加する機会を与えて下さって、皆さんに感謝します。

私たちは、皆、2103年に向けて、エキサイトしています!!

カポエイラ カマラ ジャパンよりありがとうございました。



<バンブーダンス>



まず初めに、SIFAのイベントの成功をお祝い申し上げます。

私は日本にほぼ15年滞在しており、過去の13年間は働いて、働いて、働き通しでした。

以前の私の目標は、短い期間でお金を稼ぎ、故郷に帰り、小さなビジネスを立ち上げるために、ただ一生懸命に働くことでした。なので私は、自分の時間を主に仕事のために費やすことにしていました。

私は、お金を持っていれば、家族の幸せが保障されるのだと思ってい

ました。しかし、日が過ぎ去るごとに、私は日々の生活の中に、金額によって満たすことのできないものがあることを感じました。私は孤独を感じ、内心は空しく、そして私は、コミュニティとの繋がりが欠如しているということが原因なのだと気がきました。

日本人とフィリピン人との間の文化的なギャップを埋める橋渡しをする組織を形成することにより、感謝の印として、日本に遺産を残さなければならないと悟りました。

2年前、私たちはUFPA (United Filipinos for Peace and Advancement) を組織し、そして有難いことにChicoさんを通してSIFAに出逢い、日本のコミュニティだけでなく、他の国籍の人々とも同様に異文化交流をする機会を持つ出発点を与えてもらいました。

その時から私たちは、ダンスや歌、より多くの力を通してフィリピンの文化を紹介することにより、わいわい春まつりを支えるため、私たちにできるわずかな方法で最善を尽くすことに決めたのです。

わいわい春まつり当日は、単に子ども達だけではなく、若い方からお年寄りまで、又、ハンディキャップのある人も皆一緒に楽しむことができ、本当によかったと思います。

言葉がわからなくても、それ以上お互いが理解しあえて分かり合えた、そんな日となりました。

本当にありがとうございました！



<マリネーラ>



マリネーラは今回初めて参加してくれた島袋ようこさん。不安なことも色々あって、当日もかなり緊張されていました。しかし本番が始まると、堂々として見事な踊りっぷり！！ペアの男性や女性もステキでした。

<世界の子ども遊び>



市内の公立保育所で、いつも楽しんでいる日本や世界の遊びを会場の子どもたちと一緒にしました。手あそびやダンス等、子どもたちは、大喜びで笑顔があふれていました。日本のゆったりとしたわらべ歌遊びにも興味を持ってくれました。大型絵本では、言葉に合わせて一緒に体をゆすったり、ダンスでは、動物になりきり体を動かしました。おさるのポーズがとてもかわいかったです。最後の大きなバルーンでは、みんなでもぐったり、パタパタ上下させて風を感じ「キャー」と歓声を上げ、盛り上がりました。色々な国の人が触れ合うことで、気持ちが一つにつながる事ができたと感じたひと時でした。

[わいわい色あそび] (お面作り)

クレヨンやキラキラの折り紙を使ってかわいらしいお面を作る女の子。ヒーローのお面を作る男の子。リアルな般若のお面を作る高校生…。年齢も性別も様々な人たちが体験してくれました。

日本の子どもたちとブラジルやペルーの子どもたちにはお面に対しての感じ方が少し違い、日本の子どもたちはお面=怖いという印象があったようです。



ブラジルやペルーの子どもたちが楽しんでお面を作っていたのを見て、「私も作りたい！」と日本の子どもたちも入って楽しくお面を作っていたのが印象的でした。

高校生のみなさんの協力もあり、私たちも楽しみながら参加できました。



演目の合間に、急きょステージに上げられ即興演奏！

[ダンボールクラフト]

朝から雨の中スタート初めは足取りも今一でしたが、時間が経過するに連れて人が多くなり、やがて大変な数の人になりました。やはり海外の人が多く、言葉もあまり伝わらない事もありましたが、実演する事により、みなさんに喜んでいただけました。

用意していた数も、予定より早く終了しました。



<サンバ>

フィナーレは恒例のサンバ！参加者全員で手を取り合って踊り、大変盛り上がりました。サンバのリズムに乗って踊っているみなさんは、どの方も笑顔で、大人も子供も、男性も女性も、外国人も日本人も、みんなひとつになってとても楽しそうにハッピーな空間でした。



サブコート

【民族衣装コーナー】

今年のわいわい春まつりは、雨の中行われました。外は春の嵐というような天候でした。

民族衣装コーナーでは、外国の方に浴衣を着ていただき、また日本の方には外国の民族衣装を着ていただき、互に楽しい時間を過ごしてもらおうと思っていました。

受付には、日本語・ポルトガル語・スペイン語対応の方をボランティアの中から進んでやっていただき、日本語の説明だけでなくスペイン語、ポルトガル語の説明も入れて、誰でも気軽にこのコーナーに来ていただける準備をしました。そして受付の方には民族衣装を着ていただきました。

このようにあれこれと工夫をして、わかりやすくしようなどと考えて計画を立てていましたが外は雨。

雨となると客足が遠のく・・・と誰でもが頭の中でイメージしていたことでした。

昨年のベルフォンティン派遣生がボランティアとして浴衣を着て、民族衣装コーナーの宣伝をしてくれた事もあり、始まった頃には今ひとつという感じでしたが、少しした頃から次から次へとお客さんが来てくれました。

着付けスタッフも、小林豊子着物学院から2名応援に来て下さり、大変助かりました。

浴衣を着てにっこり！民族衣装を着てパチリ！とお客さんの嬉しそうな顔を見て、こちらまで嬉しくなりました。

日本の方も外国の方もマナーがよく時間通りに戻ってきてくれました。「今年のお客さんは、時間を守ってくれるね。」などの声がありました。

ボランティアスタッフの中には、民族衣装のはずれかけのボタンを直してくれた人もいます。このようにみんながよく気がついてやってくれました。ボランティアスタッフの皆さんありがと。本当によくやってくれました。

わいわい春まつりも、回を重ねていくことにより、一年一年よくなっていきます。

来年もたくさんの人に来て、楽しく過ごしていただけるようにしていきたいです。



[似顔絵コーナー]



あいにくの雨にもかかわらず、沢山の方に来ていただき、うれしい賑わいとなりました。

国際交流のお祭りだけあって様々な国の方と触れ合う事ができ、中には母国に似顔絵を描く風習がなく、生まれて初めて書いてもらったと喜ぶ方も見えて、似顔絵を通じて他国の文化を共有で



きた事は私にとっても良い経験となりました。また、民族衣装を着ての似顔絵は去年に引き続き好評で、かわいらしい鮮やかな民族衣装を身に着けた子供たちの笑顔がとても印象的でした。

[鈴とも 展示ブース]

鈴鹿ハンターサブコートにて、(鈴とも)の活動内容が書かれたパネルを二枚展示し、わいわい春祭りに参加された色々な国籍の皆さんや、鈴鹿ハンターにお買い物に来られたお客様に(鈴とも)のこれまでの活動をご観いただきました。

パネルをご観いただいた方からは、「パネルを見て、鈴ともがどんな活動をしている団体かよくわかりました」や、「国際交流に興味があるので、一度参加してみたいです」等の言葉をいただきました。

今回のパネル展を通じて、国際交流に興味はあるが、実際にどのように活動したらいいかわからない人が多いということがわかりました。今後も(鈴とも)のPR活動を行うと共に、鈴鹿市の色々な場所で、わいわい春祭りのようなイベントが開催されればと思います。



[IATSSフォーラム 展示ブース]

IATSS フォーラムは、ブースにて写真パネルや東南アジア民芸品の展示を行い、これまでの研修の様子を映像でも紹介させていただきました。

みなさま既にご存じのとおり、フォーラムでは、毎年ASEAN 9カ国から若者を招き、「共に考え、共に学ぶ」のモットーの元、約55日間のリーダーシップ育成研修を行っております。写真パネルでは、来日から各プログラム(合宿、セミナー、グループ研究)の流れをご観いただき、動画も併せてより理解を深めていただけたかと思えます。

また、フォーラム開催中には、地元のボランティアの方々にも、日本文化紹介やホームステイの受け入れにご協力いただいているのですが、春祭り1日のみで8人に新規登録していただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

このように普段なかなか国際交流に接点がない方にも、気軽に知っていただき、新たなつながりを生むことができたことは、私たちスタッフにとってもとても有意義な機会となりました。

また、今年はASEAN諸国について学べるクイズ(参加者にはアジア雑貨のつかみ取り!つき)を行ったところ、子どもたちを中心に大好評でした。

名前は聞いたことがあるけど良く知らない、という国について、楽しみながら気軽に知ってもらうためにクイズは正にぴったりでした。

今後も、地域のみなさまにIATSSフォーラムをより身近に感じていただき、活動に参加していただけるようスタッフ一同邁進していきたいと思えます。



[JICA中部 展示ブース]

当日は、あいにくの雨天だったことが幸い？多くの方がブースを訪れて下さいました。

JICAブースでは、青年海外協力隊OBの方にも手伝ってもらい、「JICAボランティア



24年度春募集」の案内と、ボランティアに参加してみたい方の応募相談を受け付けました。

イベントでJICAボランティアのPRをすると、どうしても若い人（青年海外協力隊応募希望者）が多く来場する傾向がありますが、このイベントでは、シニア層（シニア海外ボランティア応募希望者）の来場、相談が多かったです。シニア層へのPRはなかなかできていない現状もあったので、よいPRの場となりました。

来年度も雨が降ることを期待して、というのは冗談ですが（笑）、出展させていただきたく、楽しみにしております！

[愛伝舎 展示ブース]

とくにブラジル人を中心に外国人の人口が減少傾向にあり、多文化共生活動のNPOとしても果たすべき役割が変化してきている事を感じてきています。今年度の展示は、昨年度の地域思いビジネス発表会で三重県知事奨励賞を頂いた事もあり、介護人材育成事業を中心に展示させて頂きました。地域の人材として多くの外国人の皆さんが工場以外の人と人が触れ合う介護現場で活躍することで、地域の皆さんの外国人に対する見方が変わってきています。当日はあいにくの雨でしたが、たくさんの方に足を止めて展示を見て頂き、私たちの日頃の活動をご紹介できた事は大変ありがたく感謝しております。

また三重県内の多文化共生にかかわる多くの団体が一堂に会し、交流を深める場として今後もこのような機会を頂ければ幸いです。



[鈴鹿高校 展示ブース]



生徒と共に初めて参加しました。このような盛大なイベントに関わって生徒はとても楽しそうでした。準備も少しですがお手伝いでき、イベントを盛り上げる気分は上々でしたがあいにくの天気でどうなるかと心配しました。

鈴高は「IATSS フォーラム」展示ブース前にブースを設けていましたが、IATSSのブース担当

いただきました。初めてでとまどっての方々とお話したり、時にはうちのブースの案内をしていただいたりして打ち解け、徐々にその場の雰囲気慣れていきました。

今振り返ると、このイベントで得たことは、楽しさ、皆さんの力、人との縁だと思いました。IATSSさんをはじめ参加したみなさんの活動を見せていただく良い機会となりましたし、楽しいパフォーマンスや食べ物など、今までの活動では得られなかった出会いが多くありました。それらを見て、次回参加するならもう少し鈴高色が出る工夫をしなければと、片付けながら反省もしましたが、ボランティアで参加した生徒たちもうちの部員たちもとても良い表情をしていましたので、それぞれが良い出会いをしたのだと、今年は満足しようと振り返ることにしました。良い機会を与えていただき感謝します。ありがとうございました。

[鈴鹿国際大学 インターショナルカフェ]

今回は、鈴鹿国際大学は「多言語でのコミュニケーション」を中心としたインターショナルカフェを企画しました。今回は、9か国から26名の留学生が参加しました。(看板では8ヶ国となっていますが、実際は9か国です)。中国(内モンゴルを含む)、モンゴル、韓国、ミャンマー、スリランカ、ネパール、バングラデッシュ、アメリカ、及びブラジル出身の留学生たちが、母国の言葉の仕組み、あいさつ、文字の読み書きなどを紹介しながら、会場を訪れた方々と嬉しそうに話をしていました。来場者も、一か所でこれほど多くの留学生と気軽に会うことはできないためなのか、一つの国の言葉の学習を終わるとも一つの国の留学生のところに移動するなど、長い時間にわたり複数の留学生たちと交流を楽しんでいた姿がうかがえました。

中には、昨年も本学の会場を訪れたことのある年配の女性が、携帯電話画面に写っている留学生の写真を見せ、「この留学生にまだ大学にいるのならこの写真を渡したいから」、ということで、わざわざとその写真を印刷して持ってきました。ちょうどその学生(韓国出身)が今回もこの交流活動に参加していたため、まさかの再開ができ、二人ともとても驚いていました。



鈴鹿国際大学の留学生たちは、社会との接点を大事にしているため、本学のグローバルスタディー事業(留学生などの地域派遣事業)などを通して小・中・高などの教育機関や、コミュニティーセンターなどへ出かけ、幅広い国際交流活動に参加しています。今回、多くの留学生たちが鈴鹿国際交流協会が企画したわいわい春祭りに参加し、たくさんの心優しい地域住民と交流できたことで、とても喜んでいました。

屋外コート

[アメリカコーナー むり絵&コーンホール][日本の子どもの遊びコーナー]



今年のわいわい春祭りは、誰も来ないさびしい一日でした。お客さんが、来なくて残念、アメリカの青年たちが行ったゲームコーナーも寂しくて、お互い、一つになって慰め合い、ストーブで暖をとりながら、仲良く歓談する結果になりました。悪天候がなせるアメリカと日本の交流が生まれた一コマでした。感想を求められれば、一言です。「冷たい雨風の中、みなさん大変でした。」

反省会では、「竹の切り出しや、竹細工で作った竹馬や紙鉄砲は殆ど無駄になったけれど、子どもたちの喜んでいる姿を見ると、慰められるなあ！」でも、ホッペは、来年はきっと良い日に恵まれますように、お天道様！お願いしまーす。



国際販売ブース

[IIFC & タランガフレンドシップグループ]



今年は大荒れの天気の中で行われ、外の屋台の方たちは寒さと吹き付ける雨で気の毒なほどでした。私たちタランガフレンドシップグループとIIFC・国際理解実践センターは、スリランカの紹介、韓国交流の紹介とともにバザーを行いました。通りすがりの方がフラッと寄ってくださるというのは、新たな協力者がえられるので、とてもうれしいことです。特に、ボランティアの高校生の様子を見に来られた家族の方が、子どもを通して国際貢献、国際交流活動を知ってくださるということが今年は

多く感じられて、良い機会をもらったと感じました。

ともかく、スタッフの方々ご苦勞様でした!!! 感謝感謝です!!!

[ペルー民芸品]



今回、はじめての参加でしたが、マリネーラのパフォーマンスも参加していたので、緊張感も高く、販売ブースの方は、姪っ子たちに手伝ってもらいました。とても良い経験をさせていただきました。

[ブラジル小物]



わいわい春まつりに参加させていただきまして感謝しております。今年が初めての参加でしたが、すごく良かったと思います、最高に楽しみました。売り上げは思っていたよりも多かった♡それより私の手芸を日本で紹介することが出来てすごく良かったです。テンションが上がりすぎて、祭りの前日まで商品を編んでいました。

雨の中でも友達とお客様が見に来てくれて、様々な方からお褒めの言葉があり、買っていただくことが出来、有難い経験でした。

毎年あるサンバのパフォーマンスには息子が初めて出演しまして、すごく盛り上がり汗でびしょり濡れて帰って来ました。出演者の皆さんすごく素敵でした。私は現場では見ていませんが、夫が写真を撮影しました。

この体験をさせてもらってとても感謝しています。

【フェアトレード】

国際交流フェスタ、わいわい春まつりに毎回出展参加させて頂きありがとうございます。雨天どころではない大荒れ天候への事前対応で、館内出展が可能となり良かったです。

子供達が「これ、知ってる、知ってる」とユニセフに関心を示し、色々学んだことを話してくれました。学生たちからは、「学校で習ったんやけど…」とフェアトレードについて質問が多くありました。

又、今年は、ゆっくりと椅子に掛けてフェアトレード・コーヒーを楽しんで頂けたからか、チャリティー・カフェのリピート率が高く東日本災害支援ユニセフ募金にもつながり嬉しく楽しい一日でした。

4月22日当日のみならず、事前より準備等で大変お世話になりました。

SIFA スタッフ、実行委員会、ボランティアのみなさんありがとうございます！感謝！感謝！！です。



【ペルー民芸品】

いつも、派手な民族衣装と楽器の演奏で参加している夫が、今年は都合で出られなくなったので、急遽、ピンチヒッターとしてペルー雑貨販売で参加することになりました。

夫と違って、自分ではパフォーマンスができないので、お客さんになんとか興味を持ってもらおうと思って、売り場には、ペルーに関する本を3冊持参しました。その中の1冊、「旅の指差し会話帳 ペルー」は、向かいの売り場にいたペルー人の子供や、ペルー人のお客さんがとても興味深く見ていました。そのお客さんは、その本を欲しがっていました。本屋に売ってますよ、と教えてあげましたが、後から考えたら、その本を売ってあげてたらよかったなあ、と思いました。

自分の子供に自分の国のことを知ってほしかったり、自分の国のことを日本語で書かれていて興味深いんでしょうね。

本当は、地球儀も持っていきかけたのですが、天気が悪くて準備にあたふたして、結局持っていきませんでした。地球儀があれば、お客さんももっと興味を持ってもらえるでしょうね。

悪天候の中、参加のみなさん、SIFAのみなさん、お疲れさまでした。ありがとうございました。



<全体>

国際屋台村



<ペルー>



<インド>



<中国>



<ブラジル>



<日本>



<タイ>



<韓国>



<インドネシア>



<ブラジル>



<マレーシア>



<トルコ>



<中国>



<世界のビール>

東日本大震災復興義援金



わいわい春まつりの会場では、今年も被災地を応援しよう！と参加者のみなさんや会場のみなさんに募金を募りました。

合計44,809円の義援金が集まり、実行委員長の島村より、鈴鹿市役所・保健福祉部の窓口を通して、日本赤十字社へお届けしました。

ご協力いただきましたみなさまに感謝申し上げます。



今年はお天気に恵まれず、あいにくの雨でしたが、雨でもかえって良かった点もいくつか見えたりして、大変勉強になりました。

国際屋台村やアメリカ・日本の遊びコーナーのみなさまには、大変不自由をおかけしました。

しかしながら、雨でも出来るんだ！ということがわかり、その場合どのようにすればよかったか、ということなど学びも多かったので、次回は、これを活かして準備をしていきたいと思えます。

今回、春まつり後に協力していただいたボランティアさん達と反省会を設けました。

大変嬉しいことに、若いメンバーが増えて、とても活気がありました。

今回当日だけボランティアをした人も、次回からは、実行委員会メンバーとして参加していきたい、と言ってくれて、本当に心強かったです。



わいわい春まつりは、ボランティアのみなさんや協賛企業関係のお力に支えられて、やっと開催が出来るイベントです。今後も有志の方が増え、外国人や日本人が共に力を合わせて開催できるおまつりになっていけばいいなあと願っています。

みなさん、ありがとうございました。

そして、ハンターさん、ありがとうございました。

また来年4月21日（日）にお逢いしましょう！